

uhb 大学報

学びと出会いへ 第一步 36期生迎え入学式

令和5年度の入学式は36期生を迎え4月11日、道新ホールで行われ、生涯学習への意欲と新たな出会いへの期待に胸をふくませ新入生51人がスタートを切った

開校36年目を迎えた入学式は、大学讃歌の斉唱で開幕。最初に鶴井亨北海道文化放送社長が「第36期生の皆さんの入学を心から嬉しく思います。この3年間コロナに翻弄されUHB大学も影響を受け例外ではありません。最近は感染者数も少し押さえられ、入学希望者も3年振りに増えたと聞いています。コロナ感染の位置づけも5類に変更になり、少し気分も和らぐのではないですか。生涯学習の場としてUHB大学の学生生活を楽しんでいただき交流の場を広げていただきたい。益々健康に留意されUHB大学がさらに発展する事を祈念申し上げます」と祝辞を述べた。



続いて加藤絃之学長が「新入生の皆さん入学おめでとうございます。日本は世界有数の長寿国です。人生100年時代の今日、80歳の壁という言葉があります。これは「日本人は80歳を超えると、急に要介護や認知症が増える」ということで、この壁を超えるには、信頼できるかかりつけ医に定期的に診てもらい病気の早期発見をする。そのためにはよい医師選びも大切です。食事は食べたい物を食べて、よく噛みます。噛めば噛むほど脳と身体が生き生きしてきます。高齢期を迎えての生き方は外に出る事、周りの人とかかわる事が大切です。そして学びをやめたら年を

取ってしまう。行動とおしゃべりは学びの先生です。今回84歳で札幌南高校定時制を皆勤で卒業された方が更に学び続けたいと入学されました。また、在校生の中には89歳で自家用操縦士の資格を持ち南西沖地震の際には医師や医薬品の搬送なども担った方もいらっしゃいます。身近な事を互いに話し合い、UHB大学での友との語らいをどうか大切にしてください。36期生の皆さんを心から歓迎します」と温かく迎えた。

新入生を代表して稲垣直子さんが「今後のさまざまな不安要素にも賢明な対応ができる能力を身に付けたいと思う。生涯、学び続けていきたい」と決意を述べた。在校生を代表して33期生の加藤義明さんが「健康に留意して入学時の志を忘れず、UHB大学での出会いを大切にして一緒に生涯学習をしていきましょう」と歓迎の言葉を述べた。

続いて北海道医療大学名誉教授石垣靖子さんが「物語られるいのちに寄り添う」と題して、「私たちは誰もが自分しか生きられない人生を生きている。人生は物語として言及でき、一人ひとりの人生は、たったひとつの固有の物語り。医療において、物語られるいのちに寄り添うということは、固有の物語を生きている一人ひとりを大切にしようとする人間尊重の姿勢。超高齢社会の中では認知症のある人

を人間として尊重して生きる事は大切な事。自分らしく長寿を生きたいという事は、年を重ねることに様々な不自由さが増してくるが、上手に援けを借りながら自立していききたいものである。いのちに寄り添う、いのちを看取るということとは、その人の人生に触れ、感情に触れ、ねがいにふれ、なみだにふれ、そしてその人自身にふれようとするケア。そしてそのときをその人と共に生きる事。この3年間のコロナ禍の中から、私たちは日常の他愛ない触れ合いや語り合いの大切さに気付かされた。人と人との関わりが私たちの日常を支える、あるいは生きることを支えていることに改めて確認した」と、終末期患者とのご自分の体験も話され記念講演を締めくくった。



36期生は加藤学長を囲み記念写真撮影後、事務局員の紹介、開講日の流れなどの説明を受け式は無事終了した。



新入生代表
稲垣 直子
(36期生)

生涯学習をライフスタイルに

やわらかな春風に心華やぐ季節となりました。この良き日に、私たち新入生は晴れて36年の歴史を誇るUHB大学の入学式を迎えることができ、心から嬉しく思います。これまで何度か経験したことではありますがあらたなるステージへの期待と希望が胸にあふれ、



在校生代表
加藤 義明
(33期生)

出合いを大切に一緒に生涯学習を

UHB大学36期生の皆さんご入学おめでとうございます。事務局の方より在校生からの歓迎挨拶依頼があり、僭越ですが私が入学時に体験した事を話して歓迎の挨拶に変えさせていただきます。私は古希まで会社員として勤めることが出来ました。現役時代は

身の引き締まる思いでいます。このような素晴らしい式を執り行つていただき心よりお礼申し上げます。

私達の年代もいよいよ高齢期に入り、仕事や子育て等の義務的な労務から解放されつつありますが、人生100年とされる時代、60代で定年退職を迎えてもまだ30年前後の時間が残されています。

これからの人生を有意義に過ごすに当たり、自らの老いへのあり方やライフスタイルを考えていくなかで第二、第三の人生を豊かで自立したものにするために必要と考えられているのが、一生にわたり学

ぶ機会を持ち続ける生涯学習の考え方です。私は現役時代から生涯学習をライフスタイルとすることを人生の目標と考えていたこともあり、このたび大学への入学を決めました。

生涯学習について内閣府が行った調査で60歳以上の人の回答を見ると生涯学習をしたことがある人の6割の人が学ぶことで自分の人生がより豊かになっている、と回答しているそうです。

仕事をしている間には得られなかった、さまざまな立場・年齢の方々と交流機会を得る定年退職

後の人生を豊かに過ごすべく、また、これから訪れる様々な不安要素について賢明な対応ができる能力を身に付けたいという願望も叶えられるのではないかと欲張りな期待をしているところです。もちろん自分の努力次第ですが。

私は先月まで医療系の専門学校で専任教員をしていました。その中で、たくさん学生達と出会い、その教え子たちは大半が取得した資格を存分に発揮して今も現場を支えてくれています。その教え子たちに恥じないように私も生涯学び続けて行きたいと思っています。

最後になりましたが、大学の関係者の皆様にはこれよりご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。36期生代表の挨拶とさせていただきます。

人との関わりは当たり前でいたしましたが、古希になり来月からは「会社に来なくて良いです」と言われると、趣味や特技が無い私にとって「社会から必要なし」といわれたようで得体の知れない不安感を覚えました。そんな時、道新でUHB

大学生募集広告を見て、一般教養講座と選択講座で他の人と交わって、尚且つ「今日行くところがある」と「今日用がある」という、今までと同じ様な生活が出来ると思ひ入学願書を提出しました。

2020年4月に入学式の予定でしたが、前年暮れからコロナ感染が流行し、世界中がパンデミック

ようやく7月から講座は始まりましたが、距離を取りマスクをしての講座受講となったため学生同士の親睦会等はあるように出来ませんでした。コロナ騒動から3年が過ぎ、ようやくコロナ前の日常に戻りつつあります。

UHB大学の午前中の一般教養講座は道内の各方面の第一線で

活躍されている先生方の最新情報を年35回講義してもらえる大変有意義な時間です。その例として、昨年11月受講の「北海製缶100年源流への旅」の講演で小樽運河に面する北海製缶小樽工場第三倉庫に関する100年前からの日

魯漁業と対ロシアとの関わりなどの受講を契機に両国の国境線制定の変遷から戦争とその後の経緯を調べてみると長年の北方領土問題と今ウクライナで起きている戦争まで繋がっていることが理解できます。皆さんも一般講座をきつかけに、もっと知りたい事を深掘りするヒントをもらえたいと思います。

3月のWBC大会では、日本選手が一致団結して7戦全勝で世界一を勝ち取るのをリアルタイムで目撃しましたが、私達高齢者も自分に関心のある選択講座を真剣に楽しんで受講し、その成果を10月の文化祭で発表し人生の生きがいとして下さい。今までは、コロナの影響もあり学生間の交流等はありませんでしたけれど、今年度からはお互い健康に留意して入学時の志を忘れず、UHB大学での出会いを大切に一緒に生涯学習をしていきましょう。

新入生の皆さんの入学を歓迎し在校生の挨拶といたします。

令和4年度学位授与式

12年間の学びを終了した大学院名譽博士課程7人、大学院博士課程12人、大学院修士課程10人、4年間を終了した卒業生22人に卒業証書、修業証書が手渡された。

学位授与式典は3月17日午前10時30分からカナモトホール2階の第二会議室で執り行われた。初めに、加藤学長が「ご卒業、修業される皆さん誠におめでとうございます。6年間で3日以内の欠席数が5人、4年間一度も休まず通った方が2人、3日以内の方も2人います。皆さん熱心にUHB大学での生涯学習



に勤しみ、その向上心、探求心に心から敬意を申し上げます。人間一人では生きていけません。大切な事は健康を維持し、自然に帰る、家族の下に帰る、心の通う友と語ることです。これからの人生を更に充実させ生涯学習を続けて下さい。心から敬服の言葉を申し上げお祝いの挨拶とさせていただきます」と述べた。

12年修業の大学院名譽博士課程24期生7人、4年卒業32期生22人にはそれぞれに加藤学長より証書が授与された。大学院博士課程28期生12人を代表して石鍋宏子さん、大学

院修士課程30期生10人を代表して三浦誠壽さんに証書が渡された。続いて6年間精勤の三浦誠壽さん、三浦敦美さん、山下貢さん、浅間元基さん、菊地好江さん、4年間皆勤の市村千恵子さん、加藤秀明さん、4年間精勤の鎌田昭夫さん、中垣美恵子さんには学長より賞状と記念品が渡された。

4年卒業の32期生を代表して吉岡宗則さんが「本日この様な式典を遂行していただき、お祝いのお言葉を頂戴し厚くお礼申し上げます。32期生の皆様と共に雨にも負けず、コロナ感



染症にも負けず、卒業を迎える事が出来ました事、誠に有り難く深く感謝申し上げます。思い出せば4年前に、北海道新聞にUHB大学の記事がふと目に止まりドキドキしながら入学の手続きをし、ご縁を頂きました。午前の講演では天文学、医学、音楽、民俗学等々様々な分野で研究し実践されている諸先生方の幅広い講義を拝聴し、知識を深める事ができました。午後の選択講座では、極めたい講座を受講し講座終了後にはミニお茶会、ミニ宴会で遊びながら議論を深め、友情を育んできました。私達が入学の年はコロナ感染症もなく、余市に、ワイナリーに、神威岬に、函館にと旅行も組まれ新しい感動がありました。現在97歳、94歳の学生が在籍しているそうで32期生の私達全員が心一つにして100歳、120歳



目指して元気いっぱい人生これから旅行も遊びも勉強も楽しみ、UHB大学の学生であり続けたいと願いながら明日に向かって進んでいきます。大学運営のスタッフの皆さんに感謝申し上げ、未来に向かって発展、継続される事をお願い申し上げますと述べた。

閉式にあたり「仰げば尊し」を声を出さずに心の中で斉唱し、各期ごとに加藤学長を囲み記念撮影をし無事式は終了した。



同好会活動

パークゴルフ同好会

4月18日ギャラリー大通美術館
2階会議室にて定期総会が開催された。令和4年度の事業報告、決算報告、会計監査報告が行われた。続いて令和5年度の事業計画案と収支予算案が報告承認された。年間6回の例会が予定されており、新会員含め23人でのスタートとなった。

ゴルフ同好会

令和5年度 5月例会成績(5月26日) 鶴岡国際パークゴルフコース

男性	優勝	尾崎 耕策 (UU会員)	スコア 109
	準優勝	荻原 博 (UU会員)	スコア 113
	第3位	竹下 正昭 (UU会員)	スコア 114
女性	優勝	室崎 洋子 (36期生)	スコア 112
	準優勝	及川 靖江 (UU会員)	スコア 119
	第3位	大島 博子 (33期生)	スコア 128

令和5年度 6月例会成績(6月30日) エルムパークゴルフクラブ

男性	優勝	山下 貢 (UU会員)	スコア 100(HC 0)
	準優勝	佐野 博昭 (UU会員)	スコア 119(HC 0)
	第3位	竹下 正昭 (UU会員)	スコア 123(HC 5)
女性	優勝	室崎 洋子 (36期生)	スコア 134(HC 10)
	準優勝	及川 靖江 (UU会員)	スコア 135(HC 7)
	第3位	伊達三和子 (33期生)	スコア 135(HC 0)

第1回コンペ(5月10日)
札幌リージェントゴルフ倶楽部 旧コース

優勝	里中 哲夫 (UU会員)	N 71 H 20
準優勝	及川 隆夫 (UU会員)	N 72 H 21
第3位	菊地 栄一 (33期生)	N 73 H 11
第4位	櫻井 孝 (UU会員)	N 74 H 26
第5位	後藤 政則 (28期生)	N 74 H 31

令和4年度の決算書及び現金出納関係書類で詳しく報告され承認を得た。その後は、新年度の予算案ハンディキャップなどが報告され、幹事と新会員が紹介され29人でのスタートとなった。

4月11日ギャラリー大通美術館
2階会議室において令和5年度の総会が開催され、令和4年度活動報告がされた。予定されていた8回のコンペ中、第3回のサンパーク札幌ゴルフコースは雨天のため中止となったが平均参加率は79%と高い出席率だった。続いて、令和5年度のコンペ開催活動計画が発表され今シーズンはすべてセルフプレーとなった。

4月の総会で日程等が決まり5月第一回目のコンペを開催しました。総会時には町内会敬老会の様子の面々が男子は意気軒昂、女子は容姿端麗で現れ、行動も口調も10歳以上若返った姿にただ驚くのみ、ゴルフは高齢者に妙薬らしい。私は日本の高度成長期時、バブル期には暴飲暴食、ゴルフ三昧、様々の賭け事など無理な生活をしてきましたが今は、多少の酒、ゴルフ、宝くじ

ゴルフの魅力
里中 哲夫
ゴルフ同好会恒例の年度第1回目の優勝者の一言として原稿書きを命ぜられました。筆無精の私、拙文をご容赦を！

第3回コンペ(6月28日)
羊ヶ丘カントリー倶楽部

優勝	菊地 栄一 (33期生)	N 73 H 11
準優勝	鶴田 靖子 (28期生)	N 74 H 36
第3位	舘田 周二 (UU会員)	N 76 H 13
第4位	渡邊 理彦 (UU会員)	N 76 H 25
第5位	林 邦生 (36期生)	N 77 H 11

第2回コンペ(6月7日)
札幌エルムカントリー倶楽部 西コース

優勝	櫻井 孝 (UU会員)	N 66 H 26
準優勝	岩田 浩子 (30期生)	N 74 H 18
第3位	佐々木誠一 (UU会員)	N 74 H 18
第4位	仲 恭司 (35期生)	N 75 H 28
第5位	菊地 栄一 (33期生)	N 76 H 11

だけが趣味です。家族からは高齢者らしい生活をとられますが、ゴルフだけは止められません。明日ゴルフだと天気はどうか、忘れ物はないかと気もそぞろ、朝はなぜ早く起床して落ち着かない。私も傘寿を過ぎこれまでの生き方を考える。と諸先輩に大変御世話になりました。特にゴルフではマナー、人間関係を熱心に御指導をいただき感謝しています。ゴルフ同好会には私より先輩の方が2、3人いらっしゃると思いますが私も負けないよう一層頑張りたいと思います。出来れば孫とプレーする事が夢ですが無理かな。あと10年頑張るか！

ゴルフは全て自己責任のスポーツです。性別、年齢に関係なく楽しめます。米国の有名な人が「人生の価値は財産ではなく何人かのゴルフ仲間を得たかである」と言っています。UHB大学の皆様ゴルフは健康にも精神にも貢献すると思います。楽しいですよ、一緒にいかがですか。

おめでとう

★第70回記念写真真道展(北海道新聞社、北海道写真協会主催)において第一部 自由で小林久勝さん(26期生)が入選されました。
★第64回北海道道展(北海道新聞社主催、道書道連盟、道後援)第4部 詩文書において小比賀秋水先生が入選されました。

おくやみ

心から冥福をお祈りします。

富岡 俊彦さん(UU会員・17期生)
令和4年12月14日逝去されました。
中田 政一さん(UU会員・12期生)
令和5年5月6日逝去されました。
皿井 嵩さん(UU会員・14期生)
令和5年6月11日逝去されました。
佐々木マリ子さん(34期生・ユース講座入院闘病中でしたが、
令和5年6月19日逝去されました。

編集後記

☆特別公開講座「元氣！長生き！健康セミナー」を8月22日13時から道新ホールにて開催されることが決定しました。
三浦雄一郎さんを父に持つプロスキーヤー三浦豪太さんをお迎えして三浦家の元気の秘密や風邪をひかなくなる呼吸方法など実践を交えながらお話ししていただきます。
皆さんのご参加をお待ちしています。

☆毎年開催しています文化祭、今年は道新ホールで行われる舞台発表が10月24日、ギャラリー大通美術館開催の作品発表は10月24日から29日です。

発行
uhb 大学
事務局
札幌市中央区
北1条西14丁目
北海道文化放送内
(011)214-5225